

平成30年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	宮古	学校名	宮古市立崎山小学校	TEL	0193-62-3680
------	----	-----	-----------	-----	--------------

すべての児童が「わかる」「できる」そして、「楽しくなる」学力向上の取組

【今年度の目標】

- (1) 校内研究を柱に、児童が「わかる」「できる」感を十分に味わえるような授業実践や、定着を図るための継続した取組を行うこと
- (2) 国語科・算数科における重点領域の目標値設定をして取り組むこと
 - 国語科：「話すこと・聞くこと」において各種調査で伸びが見られること
 - 算数科：「数と計算」において各種調査で伸びが見られること
- (3) 質問紙「授業内容がよく分かる」の回答（積極的肯定）を各教科とも増加させること

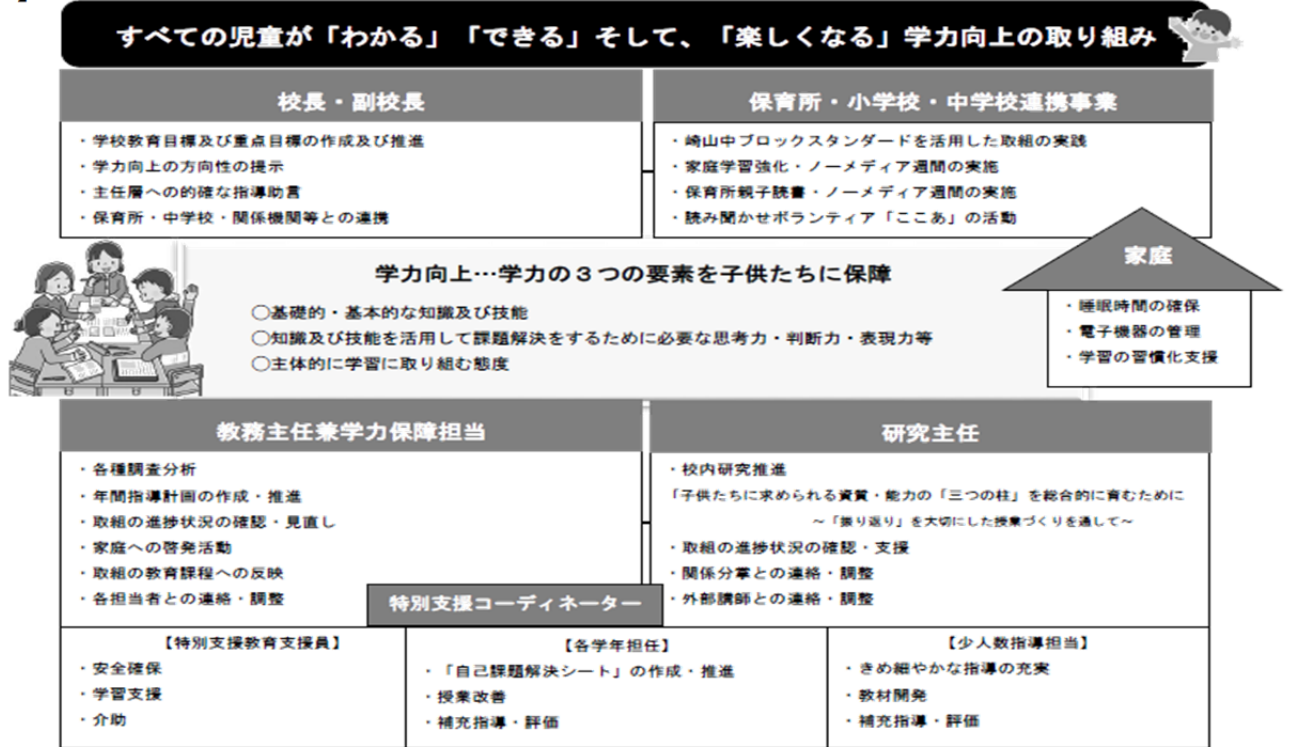
【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- (1) 校内体制の構築と実践
- (2) 校内研究を中心とした授業改善の実践

【具体的な取組】

- (1) 校内体制の構築と実践
 - ① 学力向上の全体構想図とスケジュールの提示
 学力向上の全体構想図【資料1】とスケジュール【資料2】を示し、全職員共通理解の下、学力向上に取り組んだ。

【資料1】 「チーム崎山」の組織を活かした学力向上の全体構想図



【資料2】 スケジュール

												主担当：		
												学力向上	研究主任	担任
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
C	アセスメントシートによるリサーチ			アンケート進捗状況チェック	夏休み明けテスト		自己研修成果発表会	アンケート進捗状況チェック		冬休み明けテスト	アンケート進捗状況チェック	自己課題解決シート評価		
	全国学調	全国学調分析					県学調	県学調分析	標準学力検査	標準学力検査分析				
A		授業研究会 授業改善			実践発表	授業研究会 授業改善		学力向上対策委員会①	実践発表	学力向上対策委員会②				
P	「『確かな学び、豊かな学び』実現プラン」確認			「『確かな学び、豊かな学び』実現プラン」見直し、確認					次年度の「『確かな学び、豊かな学び』実現プラン」構想			「『確かな学び、豊かな学び』実現プラン」確認		
	自己課題解決シート作成		自己課題解決シートの見直し				自己課題解決シートの見直し				次年度構想			
D	授業実践資料収集							学力向上月間朝読書→朝学習		授業実践資料収集				

② 自己課題解決シートの作成と進捗状況の確認

担任は一人ひとり児童の実態を踏まえ、「取組指標」と「検証指標」を明記したシートを作成し授業改善を行う。

【資料3】自己課題解決シート

自己課題解決シート		教科・領域	国語科 話すこと・聞くこと	3年	小野真悠子
研究主題	子供たちに求められる資質・能力の「三本の柱」を総合的に育むために ～振り返りを大切に授業づくりを通して～				
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の話の大事なところを落とさず聞いたり、自分と比べて聞いたりすることが苦手。 ・発言することに自信をもてない。 ・自分の考えを言葉にすることに難しさを感じている。(説明等) 				
取組指標1	単元名	よい聞き手になろう	取組時数	1学期 6時間	
	具体的な取組	・話を聞くときの観点をはっきりさせてから活動させる。			
		・グループでのやり取りや話し合いは、手引き沿って、混乱なくできるようにする。			
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の振り返りは、黒板で1単位時間の学習を確認した後、個人の振り返りを行い、できたことや分かったこと、次への課題等を実感できるようにする。 ・前時想起の際に振り返りを活かし、振り返りのよさを実感させる。 			
取組1を終えて	<ul style="list-style-type: none"> ・常に話の中心を捉えながら聞こうとする児童が増えた。 ・個人の振り返りをする中で指導した内容を理解することができたかを確認することができた。また、振り返りを前時想起の際に活かすことで、振り返りのよさを確認することができた。 				
取組指標2	単元名	つたえよう、楽しい学校生活	取組時数	2学期 15時間	
	具体的な取組	・伝えたい目的と内容を明確にして、言葉遣いや視線などに注意しながら話すことができるようにする。			
		・必要な事柄を調べたりインタビューしたりすることができるようにする。			
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の振り返りは、黒板で1単位時間の学習を確認した後、個人の振り返りを行い、できたことや分かったこと、次への課題等を実感できるようにする。 ・前時想起の際に振り返りを活かし、振り返りのよさを実感させる。 			
取組2を終えて					
検証指標	1学期		2学期		3学期
	丁寧な言葉を用いるなど、適切な言葉遣いで話すことができる。		内容のまとめや話の構成を意識し、言葉の抑揚や声の大きさ、間の取り方などを工夫して話すことができる。		相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができる。
	話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。		必要な事柄について、要点をメモしながら聞くことができる。		事実と意見の関係を考え、自分の考えをもつことができる。
互いの考えの共通点や相違点を整理し、自分の考えをもつことができる。		自分の役割を自覚し、意見と理由を明確にしながら話し合いを進めることができる。		互いの考えの共通点や相違点を整理し、司会や提案などの役割を果たしながら、話し合うことができる。	

<児童の実態>

- ・学習指導要領の目標に照らして
- ・諸調査結果から

<取組を終えて>

- ・取組後の成果と課題を記入し、「自己研修成果発表会」で発表する。



自己研修成果発表会

「自己研修成果発表会」

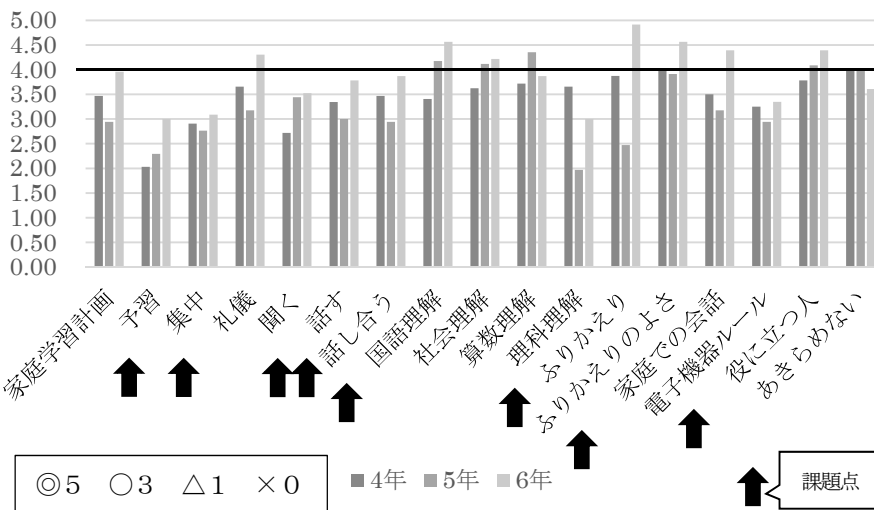
- ① 参加者が授業者の日々の実践から指導法の改善の視点を得られる
- ② 授業者が計画を見直す機会となる

<検証指標>

- ・ルーブリック形式で示す
- ・進捗状況を確認する

③ 児童及び指導者向けアンケートと進捗状況の確認

1学期学習チェック(4, 5, 6年)



1学期末の職員会議でアンケート結果を示し、2学期の学習指導、授業改善の方法を確認する。

<児童の振り返り>

- ・話し合いの時に積極的に参加したい。
- ・予習をしていなかったのでしたい。
- ・家のルールを破ってしまうので直したい。
- ・友達にフォローしてもらっているの次は一人でやりたい。
- ・学校では◎が多いけれど、家では○が多いので、家でもルールを決めてやりたい。

④ 崎山中学校ブロックスタンダードを活用した保小中連携した取組（4年目）

ア 家庭と連携して取り組む家庭学習

「崎山中学校ブロックスタンダード」を家庭に配布し、理解と協力を得る。

崎山中ブロックスタンダード（家庭学習&情報モラル編）

家庭学習を習慣づけるための3つの約束
(保護者の皆様へお願い)

- 1 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズム
- 2 テレビやゲーム等をつけない時間の設定
- 3 毎日決まった時刻に始める学習習慣

学力向上 七つの秘訣

- 1 授業の復習 その日のうちに
- 2 毎日継続 力のもと
- 3 家庭学習は 授業で集中するための準備
- 4 授業とは 分からないこと分る場所
- 5 決まった時間に決まったところで
- 6 読書から 心と頭に栄養をたまる
- 7 学習は すればするほど楽しくなる

どの勉強法が っているかな？

【五感勉強法】
五感すべて使って学習すれば覚えやすい忘れにくいようです

【毎日コツコツ勉強法】
毎日時間を決めて短時間でもいいから続けることが大事です

【くりかえし勉強法】
同じことでもくりかえし覚えようと思えばとんだん覚えることになれ、しかも忘れにくくなるそうです

メディアトラブルから子どもを守るために

- 1 夜の使用時刻を決め、深夜は使わせない
- 2 個人情報や悪口を書き込ませない
- 3 ルールを守らなかった場合は、断固たる強い態度で
(使わせない、取り上げるなど)

通信機器の使用責任者は保護者です
必ずルールを決めて守らせましょう！

学年	ホップ(習慣化)			ステップ(自主学習)			ジャンプ(計画的な学習)		着地(自分に最適な学習)	
	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学校2年生	中学校3年生	
身に付けたい力	・鉛筆を正しく持つ ・ひらがなが書ける ・カタカナが書ける ・助詞(はへ)を使って文が書ける ・漢字 80 のうち 8 割程度書ける ・たし算・ひき算ができる	・教科書がすらすら読める ・九九がすらすら書ける ・漢字 200 のうち 8 割程度書ける ・漢字 160 のうち 8 割程度書ける ・たし算・ひき算の筆算ができる	・国語辞典を使って言葉を探られる ・ローマ字を隠し読みしたりできる ・漢字 200 のうち 8 割程度書ける ・かけ算の筆算ができる ・わり算の筆算ができる	・国語辞典や漢字辞典を正しく使える ・ローマ字をすらすら読んだり書いたりできる ・漢字 200 のうち 8 割程度書ける ・整数・小数・分数の計算ができる ・47都道府県が分かる	・漢字 185 のうち 8 割程度書ける ・小数のかけ算・わり算ができる ・真分母のたし算・ひき算ができる ・割合・百分率の問題が解ける ・主な国の名称と位置とが分かる	・漢字 181 のうち 8 割程度書ける ・分数の計算や通分・約分ができる ・文章を読んで自分の考えをもてる ・日本の歴史の流れをつかみ、主な出来事を知っている	・定期テスト7割以上 ・実力テスト6割以上	・漢字検定5級 ・英語検定5級 ・数学検定5級	・漢字検定4級 ・英語検定4級 ・数学検定4級	・漢字検定3級 ・英語検定3級 ・数学検定3級
時間の目安	15分以上	20分以上	30分以上	40分以上	50分以上	60分以上	90分以上	90分以上	2時間以上	
家庭での関わり方	笑顔で話を聞きましょう ○ほめる ○答え合わせをする ○間違いを責めない ○話をよく聞く		子どもの話に耳を傾けましょう ○学習成果を認める ○答え合わせをしているか確認する ○学習内容をアドバイスする ○話をよく聞く		取り組む姿を見守りましょう ○目標をときどき聞いてみる ○学習内容・質に気を配る ○目標が達成したらほめる ○様子の変化を見逃さない		学習と部活の両立を温かく助めましょう ○生活習慣を崩さないように協力する ○学習時間を定め、集中して学習させる ○家庭の余話を大切に		寄り添いましょう ○共感的に悩みを聞く ○将来に向けて適切なアドバイスをする	
生活リズム作りと明日のために	毎日「れんらく帳」を開き、家庭学習と明日の持ち物を子どもと一緒に確認しましょう			毎日「連絡帳」を開かせ、課題と持ち物を確認する習慣を身に付けさせましょう			「タイムくん」を活用し、計画的な学習の習慣化と家庭での生活時間の有効な使い方を身に付けさせましょう			
家庭学習のメニュー例	【国語】 ○影どく ○ひらがな・カタカナ ○ひらがな・カタカナ・かんじで読めよう ○ことばあつめ ○ぶんづくり ○しゅ 【算数】 ○ひき算 ○たし算 ○ひき算 ○まちがえたもんたいを もらいだそう ★一人勉強とは... 興味があることを調べたり努力が必要な教科学習に取り組んだりするなど、進んで取り組む勉強の姿を褒めます 興味・関心を引くもの(天気図鑑、都道府県図鑑)など授業から派生した学習 努力が必要なもの(一対一)等を用いた反復練習		【国語】 ○算数 ○漢字練習 ○短文作り ○ことわざ ○教科書の復習 ○意味調べ ○日記・作文 ○本の紹介 ○ローマ字 【算数】 ○計算練習 ○文よう問題とく ○図形をかき ○問題作り ○計算の手順を写す		【国語】 ○算数 ○漢字練習 ○短文作り ○教科書の復習 ○意味調べ ○日記・作文 ○新聞記事の要約 【算数】 ○計算練習 ○文章問題 ○図形をかき ○問題作り ○公式を使って解く		【学習】 ○教科書を読む ○わからないところをチェックする (例)国語 語句調べ 英語 単語の意味調べ など 【復習】 ○漢字練習をする ○教科書を読み、ノートにまとめる ○ワーク・プリントノートで授業を振り返る ※毎日「家庭学習ノート」2ページ			

読書は、毎日10分はしたいですね。長期休業中にはゆっくりと読書の時間をとりましょう。

イ「家庭学習チャレンジ週間」の実施

崎山小、崎山中、崎山保育所による合同の取組。9月最終週に崎山小・中は「家庭学習チャレンジ」に、崎山保育所は「テレビを消して親子で読み聞かせ」取り組む。取組結果を「崎山中ブロック地域連携通信」としてお知らせし、家庭学習と情報メディアの関連等について啓発する。

家庭学習チャレンジ!&テレビを消して親子で読書!

全国的な傾向でもあるのですが、家庭学習の時間確保と情報メディアの関わりが課題となっております。「家庭学習チャレンジ」(小・中学校)、「テレビを消して親子で読み聞かせ」(崎山保育所)の取り組みを実施しました。

○小・中学校は「家庭学習チャレンジ1」家庭学習の実施把握と意識付けのため、目標時間決め、取り組む家庭学習時間調べを行いました。

○平均の家庭学習の時間
小学校39分、中学校26分
期間中の平均時間は小学校で39分、中学校では126分でした。昨年度とほぼ同じ結果でした。グラフに示されるとおり学年が上がるにつれ時間も増えている状況です。中学校は平均で2時間程度、よく取り組まれていました。

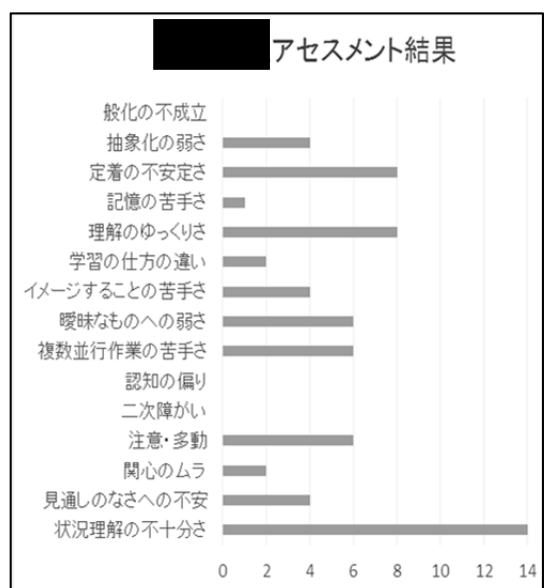
<チャレンジ期間(9/21~9/27)家庭学習の平均時間>
小6年生と中1年生を比べてみると、およそ2倍の時間になっていました。小学校から中学進学後に「中1ギャップ」と言われることがあります。このような大きな変化も一因となります。小中連携の大事なポイントとなりそうです。

(2) 校内研究を中心とした授業改善の実践

① ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級づくり及び授業づくり(4年目)

ア 児童の学習・生活面の実態把握 (Research)

学習アンケート レイネステスト	階層	バリアを生じさせる発達障がいのある児童の特徴	授業でのバリアを除く工夫
好きか 大切だと思うか 集中できるか わかるか できるか	参加	状況理解の不十分さ、見通しのなさへの不安、関心のムラ、注意・多動、二次障がい	クラス内の理解促進、ルールの明確化、刺激量の調整、場の構造化、時間の構造化
	理解	認知の偏り、複数並行作業の苦しさ、曖昧なものへの弱さ、イメージすることの苦しさ、学習の仕方の違い、理解のゆっくりに	焦点化、展開の構造化、スモールステップ化、視覚化、身体性の活用(動作化、作業化)、共有化
身に付いているか	習得	記憶の苦しさ、定着の不安定さ	スパイラル化(学年、単元間、教科間の重複意識)
活かせるか	活用	抽象化の弱さ、般化の不成立	適応化(応用・汎用)、機能化(日常生活への実用化・発展的課題)



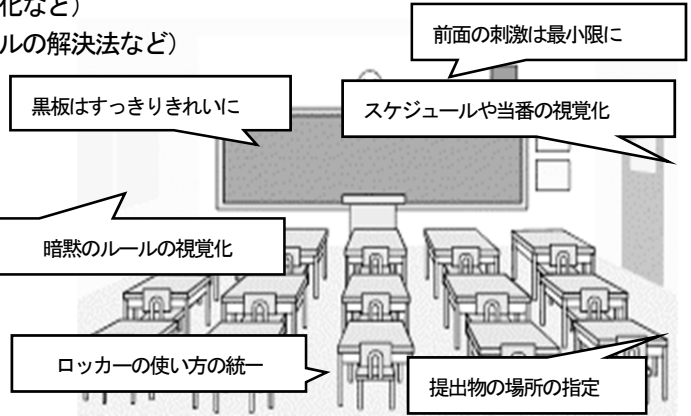
イ 学級づくり

- (ア) 教室環境の整備（整理整頓、座席、視覚刺激、スケジュールなど）
- (イ) 学習のきまり整備（学習用具、開始終了時刻、あいさつなど）
- (ウ) 生活のきまり整備（ルールの視覚化、当番の行動の視覚化など）
- (エ) 関係づくり（認め合う場、長所を生かした活動、トラブルの解決法など）

○教室環境の整備(学級①)

○給食当番内容の視覚化(学級③)
 当番の内容を手順に従って明記する。この方法により、何をしたらよいか分からない児童が激減した。

○聞き取り内容の図示(学級④)
 当事者同士が事実を確認しやすい。時系列で話せない場合もあるので、出来事の順番を確定して番号を付けるとよい。



ウ 授業づくり

- (ア) 授業の構成の工夫（学習の流れ、興味関心、学習設定、時間配分、学習形態、集中力、満足感など）
- (イ) 教師の話し方、発問や指示の工夫（肯定的、タイミング、立ち位置、前置きなど）
- (ウ) 板書、ノートやファイルの工夫（授業の流れ・大事なところ分かる、見やすいなど）
- (エ) 教材・教具の工夫（具体物、視聴覚機器、用具、ワークシート、応用、発展など）

指導案上にUDやALの視点による手立てを明記する

○学習の流れの提示(授業①)
 単元全体の流れが分かる紙板書やワークシート、1単位時間の流れが分かるホワイトボードや板書で示すことにより、見直しをもって学習に取り組むことができる。

○教材・教具の準備(授業④)
 車の置き場所をテープで指示するなど、児童の実態に踏まえた準備をします。

学習内容	指導上の留意点(○)
<ul style="list-style-type: none"> ・問題を読み、題意をとらえる。 ・数直線に数量関係を表し、基準量を求めることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> UDおよびALの視点による手立て(★)評価(□) ★○問題の数量関係を確認し、何を求める問題なのかを確認する。 ★数直線を書いて数量関係をペアで確認する。
<p>計算の仕方を考えよう。</p>	<p>ペアで確認している様子</p>

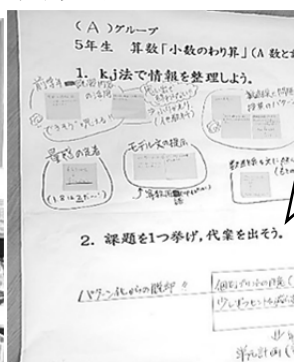
② 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善(2年目)

ア 指導案上に「主体的・対話的で深い学び」の視点による手立てを明記する

<p>5 結果を整理する。</p> <p>(1) 班毎に観察からわかったことを話し合う。</p> <p>(2) 班の考えをまとめ、代表が発表する。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>オス</td> <td>メス</td> </tr> <tr> <td>はら</td> <td>ふくらんでいない</td> <td>ふくらんでいる</td> </tr> <tr> <td>せこみ</td> <td>きれこみがある</td> <td>きれこみがない</td> </tr> <tr> <td>しりこみ</td> <td>平行四辺形</td> <td>後ろの方が強い</td> </tr> </table> <p>6 考察する</p> <p>各班の発表からわかったことをまとめる。</p> <p>6 まとめる</p>		オス	メス	はら	ふくらんでいない	ふくらんでいる	せこみ	きれこみがある	きれこみがない	しりこみ	平行四辺形	後ろの方が強い	<p>★「主体的な学び」に関する工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合い、班の考えをまとめるためにホワイトボードと拡大したメダカのモデルを用意し、それを貼り付け、そこにマーカーで記入するようにさせる。 ○自分の考えを発表する際にも、ボードや学習シートなどを使用すると相手にも伝わりやすいし、自分の説明も容易になることを話す。 <p>・メダカの雌雄にはどのような</p>
	オス	メス											
はら	ふくらんでいない	ふくらんでいる											
せこみ	きれこみがある	きれこみがない											
しりこみ	平行四辺形	後ろの方が強い											



イ UD及び「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善策を見出す研究会



KJ法で成果と課題を確認した後、思考ツール「熊手チャート」を使って代案を3~4つ示す。

③ 「振り返り」を大切にした授業づくり（1年目）

ア 様々な振り返りの方法を試みる

<ワークシートの活用>（単元1枚）

六	五	四	三	二	一	時
お話を聞いて振り返りをする。	お話を聞いて振り返りをする。	スピーチ練習の様子を見直す。	スピーチ練習の様子を書く。	友達に知らせたいことを決め、話の組み立てを考える。	習の流れをたしかめる。 「よい聞き手になろう」について考え、学習すること。	「よい聞き手になろう」学習計画 名前：船中 悠希
お話を聞いて振り返りをする。	お話を聞いて振り返りをする。	スピーチ練習の様子を見直す。	スピーチ練習の様子を書く。	友達に知らせたいことを決め、話の組み立てを考える。	習の流れをたしかめる。 「よい聞き手になろう」について考え、学習すること。	「よい聞き手になろう」学習計画 名前：船中 悠希

<行動目標の活用>（単元1枚）

1番のどうすればよりよい未来になるかがわかった	2番のどうすればよりよい未来になるかがわかった	3番のどうすればよりよい未来になるかがわかった	4番のどうすればよりよい未来になるかがわかった	5番・6番のどうすればよりよい未来になるかがわかった
黄色	黄色	赤	黄色	黄色
1番の考えと自分の考えを比べながら聞けた	2番の考えと自分の考えを比べながら聞けた	3番の考えと自分の考えを比べながら聞けた	4番の考えと自分の考えを比べながら聞けた	5番・6番の考えと自分の考えを比べながら聞けた
黄色	黄色	赤	黄色	黄色
ていねいな言葉でスピーチや発言ができた	大事な言葉は強めに言ってアピールすることができた	相手をしっかりと見て話せた	相手のスピーチについて何か質問ができた	相手のスピーチについて何か感想を言うことができた
黄色	黄色	赤	黄色	黄色
毎時間！必要なものだけ準備できた	毎時間！話している人の方を向いて話を聞けた	毎時間！先生の話を最後まで聞けた	毎時間！忘れ物をしないで授業を受けられた	毎時間！はじめと終わりのあいさつが先生に聞こえるようにできた
黄色	黄色	赤	黄色	黄色

<ICTの活用>



スピーチ練習の際、動画撮影をし、みんなで見合っってよさや課題を振り返る活動

イ 振り返りをピックアップし前時想起に活用

四	三	二	一	時
スピーチ練習の様子を見直す。	スピーチ練習の様子を書く。	話の組み立てを考える。	友達に知らせたいことを決め、話の組み立てを考える。	習の流れをたしかめる。 「よい聞き手になろう」について考え、学習すること。
スピーチ練習の様子を見直す。	スピーチ練習の様子を書く。	話の組み立てを考える。	友達に知らせたいことを決め、話の組み立てを考える。	習の流れをたしかめる。 「よい聞き手になろう」について考え、学習すること。

ウ 振り返りの質の向上

話の中心に気をつけていた

ふり返りとは？

2. 課題を1つ挙げ、代案を出そう

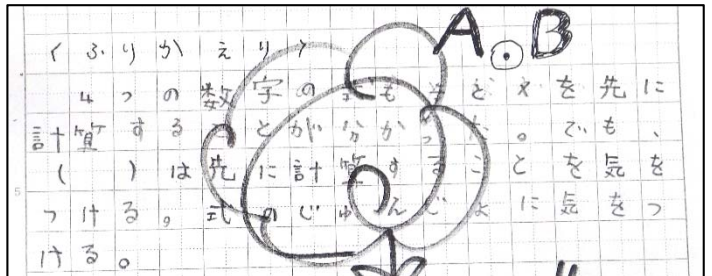
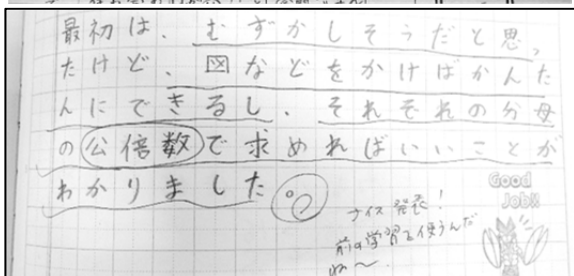
ふり返りの在り方

研究会で振り返りを視点に協議。改善策を練り、翌日からの実践に取り入れる。

できたことだけでなく

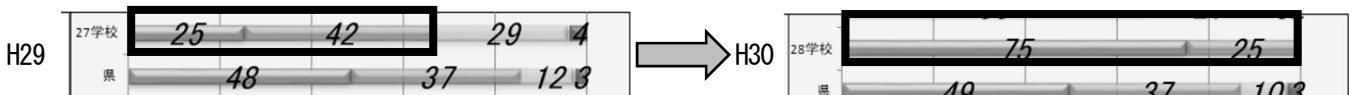
課題設定からのふり返り

教子と自分が目標達成(ゴール)を?



学習課題に照らして「分かったこと」「できたこと」「できなかったこと」「解決方法」「気を付けたいこと」などを視点に書かせる。→次時に活かす。

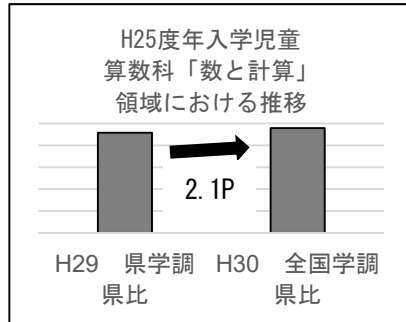
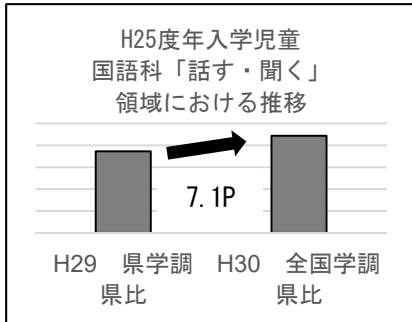
岩手県学習定着度状況調査「普段の授業で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。」H30 肯定的回答100%



【成果】

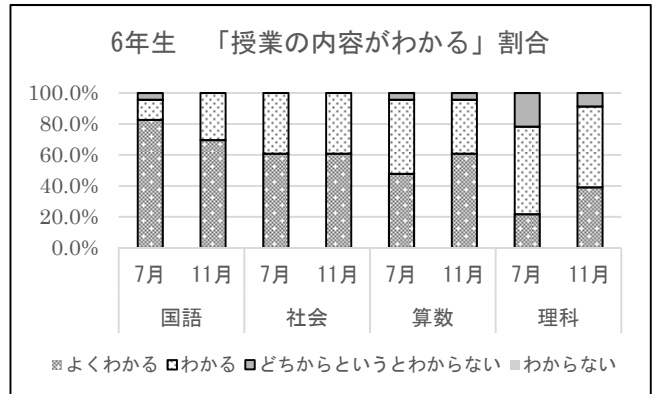
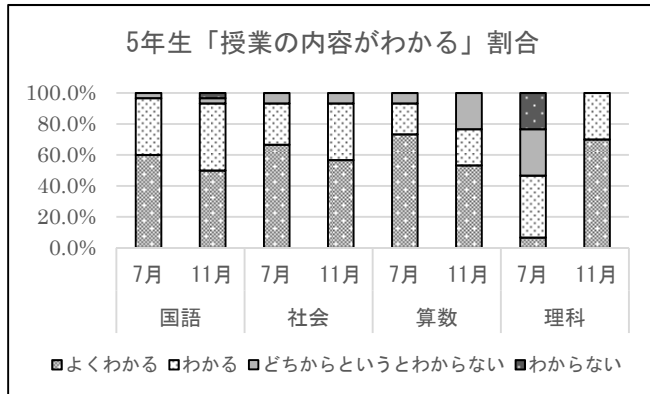
今年度の目標に対する達成状況から

- (1) 国語科：「話すこと・聞くこと」において各種調査で伸びが見られること
- (2) 算数科：「数と計算」において各種調査で伸びが見られること



○現6年生において「話す・聞く」「数と計算」領域における伸びが見られた。
・その他の学年については CRT 実施後に分析を行う。

- (3) 質問紙「授業内容がよく分かる」の回答（積極的肯定）を各教科とも増加させること

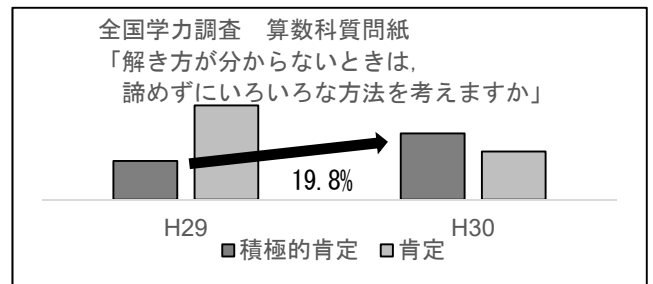
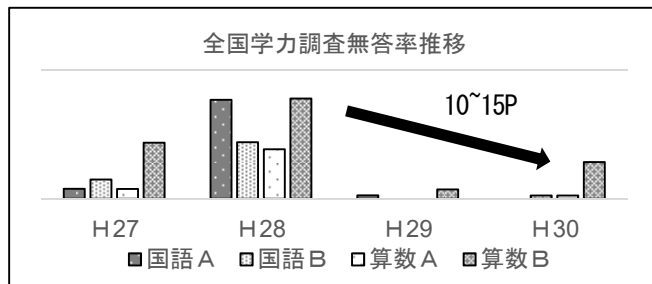


○6年生においては「算数科」「理科」において積極的肯定の回答が増加した。「社会科」においては横ばい、「国語科」においては、積極的肯定は減ったが、肯定的回答が増加した。

- ・6年生において積極的肯定の回答が増加した要因としては、単元の初めに「行動目標」示し、児童が「何がわかればよいのか」「何ができればよいのか」を明らかにし、単元途中では児童に「わかった」「できた」を確認させながら学習を進めたこと等が考えられる。
- ・5年生においては、「理科」において積極的肯定の回答が増加した。しかし、算数科においては、否定的回答が増加した。これは、「丁寧な指導」を心がけた結果習熟の時間が十分に取れなかったこと等の要因が考えられる。

- (4) その他 改善が見られた点

○無答率が下がった。 ○「諦めずにいろいろな方法を考えるか」という質問において肯定的回答が増えた。



【課題】

確かな学力の定着に向けた授業改善

右のグラフの通り、「よくわかる」と回答している児童の中にも正答率が低い児童がいる。

そこで、「振り返り」の段階で「わかった」と記述していても確かに力が付いているかを評価し、自己評価と絶対評価ができるだけ一致するよう以下のことを工夫していく。

- ア 行動目標を示し、ゴールまでの見通しをもって学習活動を行う。
- イ 習熟の時間を確保する。
- ウ 児童の自己評価だけでなく、相互評価、評価問題、教師の評価を適切に位置付ける。
- エ 学習のプロセスを振り返ったり、協働的な学習活動のよさを実感したりすることができるようにする。

